

まず、当時どう思っていたのか。

ある程度あの場合で発言することができていた私としては、クラスや学年を越えて自分の意見に、ある時は共感してくれたり、またあるときは反論してくれたりして、一体感のようなものを感じられる場所の一つでした。部落問題について考え、熱くなってたし、自分なりに必死にやっていた気がします。

Tくんの家に、「お前んち部落だろ、お前んちエッタだろ」って電話がかかってきたことを聞いたときは、「自分にもいつかこんな言われるときが来るんやろうな」って怖い気がしていました。でも全体学習などで上記のことを知って、自分達がどうすべきかとか考えられていて良かったと思いました。年を重ねて、大人と言われる年になって、ときおり自分が部落の人間だと思いつるので。日頃はどちらかという忘れてますが(^;

個人的な話ですが、今の兄嫁は元々私のメル友で、私のはじめに仲良くなったのですが、当時彼女が住んでいた地域がいわゆる被差別部落で、彼女は外から引っ越してきた人だったので、周りに住む人たちのことを蔑むようなことを時々言っていました。「これやけん、アッチの人は…」って。それを聞いて胸が痛んだし悩みました。でもずっと仲良くいたかったから、自分もそうだと打ち明けました。ビックリした様子でしたが、『『アッチの人』ってひとくくりみたいにしてごめん。ちゃんと一人の人として付き合うわ』って分かってくれたようでした。中学の時、全体学習等を通して学んでいなかったら一人で我慢して隠していたんだと思います。

あと、大人になった今、中学のときの自分の親になったような気分で感じることは、私に頑張る場所を与えてくれてありがとうということです(*´-')

勉強もなんもかんもテキトーだった私がイキイキできる場所でした(o´∀`o)

とりあえず今思い付いたのはこんな感じです(^; 役立つかどうか、的はずれかもしれないけど、少しでも恩返しできるといいな。

同和問題学習を盛んにしてた頃からはや20年、月日がたつのは早いもので。

小学生の頃は自分が同和の出身だってことなど知らずに育ち、中学生になったときにその事実を知らされたときは、何がなんだかわからなかったのを覚えています。

クラスでの話し合いや全体学習を通していくなかで、徐々にその中身と言うか実状を理解していき、自分には何ができるのか、どうあれば良いのかを考えるようになりました！はじめは綺麗事しか言えなかった自分も、幾度も話し合いを重ねていくうちに、「そうじゃない、ほんまの自分でぶつからないとみんなと分かり合えるはずがない」と察し、怖さや恥ずかしさを乗り越えて恐る恐る語ったものです。どんな話題にせよ、人それぞれの思いや意見があり、それを賛同したり反論したり。。。ぶつかり合いながらも理解し合えた時、仲間との絆が強くなっていったようにも思います。

同和問題だけではなく、普段の生活でもそれは同じで、社会に出てからもその時の活動は活かされているように思います。人との繋がりややり取り、なかなか上手くいかないことの方が多いですが、同和問題学習を取り組んでいたお陰で、自分を素直に出せて分かり合おうと努力出来るように思います！中学生の頃に真剣に同和問題に取り組んでなければ、自分に自信が持てず、綺麗事しか言えない大人になっていたかもしれません。

現在は同和問題に関わることは無くなってしまいましたが、いつまでも差別と言うものは無くならないのでしょうか？人が生きてるかぎり、人と差をつけなければならぬのでしょうか？

その問題はいまだ自分のなかでは解決できずにいます。永遠の課題として抱えて生きていくことになるだろうけど、重くは考えず、あのとときの活動で培った経験を活かし、自分らしくをモットーにのびのびと生活していこうと思います！